

会 報

No.80 (2005年2月)

目 次

日本分子生物学会 第13期第4回評議員会報告	1
日本分子生物学会 第27回総会報告	2
日本分子生物学会 第14期評議員選挙結果報告	3
日本分子生物学会 2005年度会計収支予算	4
日本分子生物学会 第5回春季シンポジウム 「新しい研究視野の提示」のご案内	5
第28回(2005年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その1)...	7
学術賞、研究助成の本学会推薦について	12
研究助成一覧	13
ロレアル アーツ アンド サイエンス ファンデーション 「ロレアル 色の科学と芸術賞」公募	15
各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	16
特定領域研究「水と生体分子が織り成す生命現象の科学」.....	16
シンポジウム「科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える」...	17
The First International Conference of the Metabolomics Society ...	18
第32回生体分子科学討論会	18
分子生物学会・男女共同参画WGより新着情報のお知らせ	19

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

入退会、住所変更等については、会員係までご連絡下さるようお願いいたします。

〒 113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 1st ジェネシスビル 5F
(株)メディ・イシュ内
日本分子生物学会事務局
TEL: 03-5805-1901 FAX: 03-5805-1092
E-mail : bunshi@medissue.co.jp

日本分子生物学会 第13期第4回評議員会 報告

日 時：2004年12月7日(火) 15:30 20:00

場 所：神戸ポートピアホテル本館 「和楽」(地下1階)

出席者：山本正幸(会長) 相沢慎一、荒木弘之、伊藤文昭、岡田清孝、小川英行、工藤 純、
近藤寿人、清水信義、清水淑子、杉野明雄、広瀬富美子、
升方久夫、町田泰則、蓑島伸生、柳田充弘(2004年会長兼)
多羽田哲也(庶務幹事) 杉本亜砂子(会計幹事) 花岡文雄(編集幹事)
飯野雄一(広報幹事) 松本智裕(集会幹事) 諸橋憲一郎(集会幹事) 佐方功幸(2005年会長)
木南 凌(2005春季シブ)
小川智子(学術会議) 大坪久子(男女共同参画)

欠席者：大石道夫、桑野信彦、榊 佳之、品川日出夫、篠崎一雄、谷口維紹、
月田承一郎、辻本賀英、長田重一、中西重忠、鍋島陽一、西田栄介、
御子柴克彦、上村 匡(編集幹事) 磯野克己(年会特別委員)
本庶 佑(2006IUBMB) 富澤純一(Genes To Cells)

議 事：

1. 報告事項

- 1) 多羽田庶務幹事より16年度科学研究費補助金の審査委員候補者を推薦したことが報告された。
- 2) 岡田賞推薦委員長より、2004年度日本分子生物学会三菱化学奨励賞を柿本辰男大阪大学助教授に授与することが報告された。今年度は1名のみ授与するので、来年度に1名分先送りすることが承認された。選考のさいに、応募書類は2年有効にするなど考慮すべきではないかとの意見が出された。
- 3) 辻本選考委員長(庶務幹事代理)より各種学術賞、研究助成候補の推薦状況について報告された。
- 4) 杉本会計幹事より2004年度会計収支中間報告がなされた。
学会事務センターの破産による年会繰越金の損害により、本年度年会に500万円の補助を行った。全体として収入が支出を上回った。
- 5) 諸橋第26回(2003年)年会庶務幹事より年会の報告があった。年会の剰余金のうち500万円を日本分子生物学会に寄付した。さらに27回年会および28回年会へ350万円寄付を行ったが、学会事務センターの破綻によりそのうち約600万円を失った。この損失を教訓に、年会が終わった後の寄付金の管理は確実に年会が行う必要がある。
- 6) 柳田第27回年会長より第27回年会について報告があった。事務センター破綻に伴う混乱にもかかわらず例年通りの規模で順調に運営されている旨報告があった。
- 7) 佐方第28回年会長より第28回年会は2005年12月7日(水) 10日(土)の期間、福岡ドーム、シーホークホテルを主会場として開催される予定であり、若手研究者主体のワークショップを設ける計画であることが報告された。
- 8) 山本会長より、第29回年会(第20回国際生化学・分子生物学会議)に関して、ポスターをアレンジするための委員(39名)を決める必要があり、評議員にはかかることが報告された。
- 9) 木南第5回春季シンポジウム世話人より、第5回春季シンポジウムは2005年5月15日(日) 17日(火)の期間、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催される予定で、講師の人選も含め順調に準備が進んでいるとの報告がされた。17日よりサテライトシンポジウムとして哺乳類遺伝学研究会を開催することも合わせて報告された。
- 10) 町田2006年冬季シンポジウム世話人より、2006年冬季シンポジウムを2006年12月6日(水) 8日(金)に名古屋国際会議場で開催するよう準備を進めており、2006年年会との関連も考え、開催形態に関しては広く意見を募集する旨報告があった。

- 11) 飯野広報幹事より学会ホームページにおいて、日本学術会議のあり方についての意見を募集している旨、報告があった。
- 12) 多羽田庶務幹事より評議員選挙結果の報告があった。
- 13) 花岡編集幹事より Genes to Cells について、現在より少し採択率を下げるくらいが望ましいが、投稿状況は安定していること、および 2005 年度の購読料は据え置く旨報告があった。
- 14) 小川学術会議議員より、学術会議が新体制に移行するにあたり会員の意見を寄せて欲しい旨要望があった。
- 15) 大坪男女共同参画 WG 委員長より、WG の活動に関して報告があった。
- 16) 多羽田庶務幹事より、学会事務は株式会社メディ・イシュに委託し、会員からの会費は郵便振替により日本分子生物学会専用口座に直接振り替えるようになった旨報告があった。

2. 協議事項

- 1) 杉本会計幹事より 2005 年度事業計画および予算案が謀られ承認された。
- 2) 山本会長より、第 30 回(2007 年) 年会は山本雅東大医科研所長を年会長として東京地区で開催する旨提案され、承認された。
- 3) 本学会に寄せられる、シンポジウム等の協賛依頼の扱いについて謀られ、学術的で営利を伴わないものについて、執行部の判断で可否を決め、判断に苦しむものは評議員の稟議にかけることとした。また、協賛を希望する団体に、簡単な理由、意義などを提出してもらうこととした。
- 4) 生物分子工学研究所の存続に関して、学会として関心を持っている旨の書簡を同研究所理事長および経済産業省担当部課に送ることとした。
- 5) 学会事務センターの破綻に伴い、被害学会がまとまって同センターの責任を追及する動きがあるが、日本分子生物学会は学会として金銭的な被害を受けていないので、この活動には参加しないことが確認された。

日本分子生物学会 第 27 回総会

日 時：2004 年 12 月 9 日(木) 18:30 19:30

場 所：神戸国際会議場メインホール(1 階：C 会場)

議事内容：

1. 開会の挨拶の後、総会議長として石川冬木氏および岩井夕子氏を選出した。
2. 議長より、860 通の委任状を含めて総会が成立していることが発表された。
3. 山本会長より、学会事務センターの破綻にみまわれたが、幸い本学会としては金銭的被害はなかったこと、今年度の評議員選挙にさいして、新しい試みとして参考リストを作成し配布したことが報告された。第 20 回国際生化学・分子生物学会議をもって 2006 年度の日本分子生物学会年会(中西重忠年会長)にあてること、およびそれに伴い 2006 年は例年と異なり冬季シンポジウムを開催することが報告された。
4. 花岡編集幹事より、Genes to Cells の on line 投稿は順調に推移しており新しい Impact Factor は 4.5 であること、より多くの投稿が望まれていることが紹介された。
5. 多羽田庶務幹事より会員現況および学会事務の取扱を株式会社メディ・イシュに委託した旨報告があった。第 14 期評議員名簿が報告された。
6. 飯野広報幹事よりホームページの運営について報告がなされた。
7. 2005 年春季シンポジウムの準備状況について木南世話人より報告された。
8. 2006 年冬季シンポジウムは 2006 年 12 月 6 日より名古屋で開催予定であることが町田世話人より報告された。
9. 杉本会計幹事より 2003 年度会計収支決算書が提出・説明され、異義なく承認された。

10. 杉本会計幹事より 2005 年度事業計画および収支予算案が提案・説明され、異議なく了承された。
11. 柳田年会長の挨拶があり、事務センター破綻の混乱にもかかわらず例年と同規模の年会が無事開催されていることが報告された。特に磯野会員には年会講演受付のホームページの作成に関して多大な尽力をいただいたことに謝意が表された。
12. 佐方 2005 年年会長より挨拶があり、福岡にて 12/7 12/10 の日程で開催すべく準備が進められている旨報告があった。
13. 議長より閉会の挨拶があり、総会が終了した。

日本分子生物学会 第 14 期評議員選挙結果報告

選挙公示・投票用紙発送：2004 年 11 月 10 日（会報 79 号に綴込み）

投票締切日：2004 年 12 月 1 日

開票日：2004 年 12 月 4 日

開票場所：東京大学理学部 3 号館

開票者：選挙管理委員（深田吉孝、飯野雄一、前田達哉）

投票総数：621 通

当選者（50 音順）：阿形清和・秋山徹・石川冬木・上村匡・大隅典子・岡野栄之・押村光雄・影山龍一郎・勝木元也・郷 通子・後藤由季子・小原雄治・島本 功・田賀哲也・竹市雅俊・田中啓二・谷口維紹・田矢洋一・辻本賀英・中山敬一・鍋島陽一・花岡文雄・本庶 佑・水野 猛・宮園浩平・柳田充弘・山村研一・山本 雅・山本 雅之

（1 名の辞退がありました。なお 印は 13 期より連続して選出された方です。）

以上 29 名

日本分子生物学会 2005年度会計収支予算

2005年度日本分子生物学会収支予算

(2005年4月1日 ~ 2006年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	2004年度予算額	2005年度予算案	備 考
学 会 費	52,940,000	56,450,000	正会員会費： 39,690,000円 (9,800名 × 4,500円 × 0.9)
賛 助 会 費	1,440,000	1,470,000	学生会員会費： 15,660,000円 (5,800名 × 3,000円 × 0.9)
広 告 収 入	2,000,000	0	海外会員会費(200名)： 800,000円
預 金 利 子	30,000	20,000	入会金(300名)： 300,000円
国 際 誌 購 読 謝 礼 金	1,900,000	1,900,000	ブラックウェル社より
寄 付 金 収 入	1,300,000	1,300,000	三菱化学より、奨励賞副賞および選考経費
雑 収 入	50,000	50,000	として
収 入 小 計	59,660,000	61,190,000	
前年度繰越金	※ 33,740,000	27,270,000	※2003年度決算・繰越金概算とした
合 計	93,400,000	88,460,000	

支出の部

科 目	2004年度予算額	2005年度予算案	備 考
事 業 費	27,050,000	27,450,000	
会報発行	3,200,000	3,200,000	
年会補助金	5,000,000	5,000,000	第28回年会補助 500万円
春季シンポジウム補助金	7,000,000	7,000,000	
国際誌発行支援金	5,900,000	6,300,000	編集経費330万円、編集部謝金200万円、他100万円
〃 オンラインアクセス費用	4,400,000	4,400,000	ブラックウェル社支払い(アクセス料100万円含む)
国際誌購読関係費	750,000	750,000	国内購読取りまとめ費用等
ホームページ関係費	300,000	300,000	
事業費予備費	500,000	500,000	
評 議 委 員 会 費	7,500,000	1,000,000	
委員会費	1,000,000	1,000,000	
選挙・名簿作成費	6,500,000	0	
業 務 委 託 費	14,000,000	12,000,000	委託先をメディ・イシューへ変更
一 般 事 務 費	14,280,000	13,480,000	
印刷費	350,000	350,000	
通信費	12,900,000	11,940,000	会報・年会プログラム・会員名簿他送料
庶務事務費	680,000	740,000	庶務幹事50万円 広報幹事24万円
雑 費	350,000	450,000	
三菱化学奨励賞関係費	1,300,000	1,300,000	奨励賞副賞および選考経費として
予 備 費	2,000,000	2,000,000	
支 出 小 計	66,130,000	57,230,000	
次年度繰越金	27,270,000	31,230,000	
合 計	93,400,000	88,460,000	

※ 上記の収支繰越金以外に、将来事業準備金 4,000,000円(定期預金)があります。

日本分子生物学会 第5回春季シンポジウム「新しい研究視野の提示」のご案内

平成17年度第5回春季シンポジウムを5月に新潟で開催いたします。開催主旨、計画および参加申込方法等をお知らせいたしますので、多数の皆様のご参加をお願い致します。日本分子生物学会では、平成13年度(2001年)から「春季シンポジウム」を開催することになり、現在に至っております。

趣 旨：日本分子生物学会年会は毎年12月に開催されますが、その規模は年々巨大化し参加人数は8000人を越えています。そのため年会は横浜、神戸、福岡のような大会場でしか開けない状況になっております。また、包括する研究分野も広範囲となり、研究内容は専門化の一途をたどっております。この状況を補うために、学会では5年前から春のシンポジウムをスタートさせ、時々の分子生物学のエッセンスを他の都市でも聴けるように努力しています。第一回は盛岡で開催され、その後は広島、米子、奈良で春のシンポジウムが開催されて参りました。本年は新潟で開かれます。

さて、この新潟で開催される春季シンポジウムも、過去のシンポジウムと同様に、様々な研究分野を総合的に考える機会をもつことを目的に開催致します。シンポジウムを一会場に限定し、講師には国際的に話題となっている、優れた論文を最近発表された方々を中心にお願いする予定で、最先端の研究成果をもとに議論して、科学の発展に役立てたいと考えています。新しい研究視野の提示と活気あふれる議論が展開されるものと期待しています。また、本春季シンポジウムでは、大学院生を含めた若手研究者が積極的に活躍できることを目的の一つにしています。若手研究者発表のための一般講演およびポスターも取り入れておりますので、発表と質問を通してシンポジウムに積極的に参加することを期待します。なお、学生・院生会員の参加費とミキサー費は無料にいたしております。

開催期間：平成17年5月15日(日)から17日(火)までの3日間。

初日15日(日)は市民公開講座を行い、翌日からシンポジウムを開催します。

なお、サテライト会合として、17日(火)の午後から引き続き哺乳類遺伝学研究会を開催します。そちらのシンポジウムにもぜひご参加下さい。

開催場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

(日航ホテル新潟隣り)

新潟市万代島6番1号

TEL 025-246-8400 FAX 025-246-8411

<http://www.niigata-bandajjima.com/>

交通アクセスのご案内は

<http://www.niigata-bandajjima.com/access/access0f.html> からご覧下さい。

会 場：【講演】国際会議室

【ポスター発表】中会議室 1室(301)

参加予定人数：約300人

プログラム：15日(日)14:00

市民公開講座

16日(月)9:30

招待講演及び一般講演(ポスター)

18:00

ミキサー・懇親会

17日(火)9:30

招待講演及び一般講演(ポスター)

《タイムテーブル》

	9:30	10:30	10:40	12:10	13:10	14:00	15:00	15:20	16:50	17:00	18:00	19:00
5月16日(月)	一般講演		招待講演1		ポスター発表	一般講演		招待講演2		招待講演3	ミキサー	懇談会
5月17日(火)	一般講演		招待講演4	引き続き、哺乳類遺伝学研究会(シンポジウム)								

市民公開講座：吉川 寛 (JT 生命誌研究館)

「生命誌：花蝶風月を科学する」

木南 凌 (新潟大学大学院医歯学総合研究科)

「DNA学入門からDNA鑑定まで」

招待講演：(敬称略)

招待講演 1

田矢 洋一 (国立がんセンター研究所)

「クラスリンによる p53 の生理機能の制御」

清水 章 (京都大・遺伝子実験施設)

「免疫系における遺伝子組換えの標的特異性制御機構」

五十嵐和彦 (広島大大学院医歯薬総合研究科・医学部)

「転写抑制因子 Bach2 による抗体応答の制御」

招待講演 2

豊島 近 (東京大・分子細胞生物学研究所)

「カルシウムポンプによるイオン輸送：構造的展望」

大野 茂男 (横浜市立大・医学部)

「Nonsense-mediated mRNA decay, mRNA の品質監視機構」

根岸 学 (京都大大学院・生命科学研究所)

「神経軸索ガイダンス分子、セマフォリンの新しい情報伝達機構の発見」

招待講演 3

高橋 考太 (久留米大・分子生命科学研究所)

「セントロメア特異的ヒストン CENP-A の局在化機構」

藤山秋佐夫 (情報・システム研究機構国立情報学研究所)

「ヒトとチンパンジーの比較ゲノム解析研究」

招待講演 4

須田 年生 (慶応大・医学部)

「ニッチによる造血幹細胞の制御」

貝淵 弘三 (名古屋大大学院・医学系研究科)

「神経細胞の極性形成機構」

濱田 博司 (大阪大大学院・生命機能研究科)

「体の非対称性が生じる機構」

発表形式：(1)招待講師による講演：30分間（講演25分、討論5分）

(2)一般参加者による講演：（講演12分、質疑応答含む）

ポスター発表の中から講演を15題選びます。選択については世話人に御一任下さい。
ただし、参加人数により演題数を変更する可能性があります。

(3)ポスター発表：約50演題を募集

ポスター発表申込締切：4月15日（金）の予定です。

参加申込：4月28日（木）まで。

参加申込およびポスター発表申込は、日本分子生物学会第5回春季シンポジウムのホームページから直接お申込ください（日本分子生物学会ホームページからリンクしてご覧になれます）。抄録の形式などについては、ホームページをご覧ください。

お問い合わせは、rykomina@med.niigata-u.ac.jpまでお願い致します。

参加費：無料

懇親会費：5000円

宿泊・航空券・JR券のお申し込み：（株）JTB新潟支店

TEL 025-246-8400 FAX 025-246-8411

当ホームページの申込フォームからお申し込みいただけます。

オーガナイザー：五十嵐道弘（新潟大学大学院・医歯学総合研究科）

那波 宏之（新潟大学・脳研究所）

世話人代表 木南 凌

新潟大学大学院・医歯学総合研究科 遺伝子制御講座 分子生物学分野
（旧 生化学第一講座）

rykomina@med.niigata-u.ac.jp

〒951-8510 新潟市旭町通1番町757番地

TEL 025-227-2077 FAX 025-227-0757

第28回（2005年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その1）

第28回日本分子生物学会年会を下記の要領で開催いたします。

会期：2005年12月7日（水） 10日（土）

（総会：2005年12月8日（木）予定）

会場：福岡ドーム、シーホークホテル&リゾート、福岡SRPセンタービル、国立病院機構九州医療センター、Zepp Fukuoka、九州大学西新プラザ

内容：現在下記の要領での開催を検討しております。詳細は次回会報（No. 81）でお知らせするとともに、第28回年会のホームページ（<http://www.aeplan.co.jp/mbsj2005/>）にも公開します。

1）年会ではポスターによる一般演題、ワークショップ（約60テーマ）、シンポジウム（21テーマ）、バイオテクノロジーセミナー等を計画しています。なお本年は、約60テーマのワークショップの内、約10テーマ程度を、若手研究者（2005年4月1日現在、34歳未満の研究者。大学院生を含む。）

の企画による若手ワークショップ枠とします。

- 2) ポスター発表の応募要領は次回会報 (No.81) に掲載します。応募の締切日は8月26日(金)の予定です。ポスター演題の中から一部をワークショップ発表へ採用する方式を検討しています。なお、本年も、年会の参加および演題受付等は昨年度と同様すべて Web 上で行う計画で準備を進めています。
- 3) ワークショップのテーマを公募します。ワークショップ (150 分程度) についてのご提案がある会員の方は、「テーマ、概要 (400 字程度)、世話人 (2 名程度)、予定演者の氏名と所属、予想される聴衆の数」を、E-mail : mbsj2005@aeplan.co.jp もしくは Fax : 06-6350-7248 で年会事務局宛に送付して下さい (2005 年 4 月 15 日 (金) 必着)。当該ワークショップにおける演者につきましては、必ず一般 (ポスター) 演題枠からも採用していただき、その数については可能な限り多くの採用をお願いいたします。全体の日程と内容を検討したのち採否を決定いたします。若手ワークショップにおきましては、世話人の方 (2 名程度) は、所属研究室 (国内外を問わない) が異なることとします。なお、演者も若手研究者に限定してください。若手ワークショップへご提案する際は、世話人及び演者の生年月日を明記してください。ご提案されるテーマが一般枠のものとは多少重複していても採用を妨げません。その他の応募要領は、一般のワークショップに準じます。
- 4) シンポジウムと一部のワークショップにつきましては、組織委員会・プログラム委員会を中心に別表にある演題を企画しています。
- 5) 講演要旨集は印刷物として発行します。Web 上での内容公開はしませんが、on-line でキーワードによる内容の検索を行い、検索結果に一致した演題番号を知ることができるようにする予定です。
- 6) 懇親会は行わず、代わりにミキサーを企画しています。
- 7) 会場に保育室を設置することを検討しています。

なお、その他年会開催についてのご意見、ご希望は年会長、副年会長または庶務幹事宛に直接ご連絡下さい。

< 第 28 回年会 年会長 >

佐方功幸 (九州大学大学院 理学研究院)

〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

Tel : 092-642-2617 Fax : 092-642-2617 E-mail : nsagascb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

< 第 28 回年会 副年会長 / プログラム委員長 >

藤木幸夫 (九州大学大学院 理学研究院)

〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

Tel : 092-642-2635 Fax : 092-642-4214 E-mail : yfujiscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

< 第 28 回年会 庶務幹事 >

中條信成 (九州大学大学院 理学研究院)

〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

Tel : 092-642-2619 Fax : 092-642-2617 E-mail : nnakascb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

年会に関するお問合せ

第 28 回日本分子生物学会年会事務局

〒 532-0003 大阪市淀川区宮原 4-4-63 新大阪千代田ビル別館 9 階

Tel : 06-6350-7247 Fax : 06-6350-7248 E-mail : mbsj2005@aeplan.co.jp

年会 HP : <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2005/> (左記ホームページは 2 月下旬開設予定)

シンポジウム・ワークショップ タイトル案

この表は公募枠ワークショップ企画の立案の参考のために掲げるものであり、今後まだ変更、調整、追加などの可能性は残されています。

シンポジウム（案）

1. 「ゲノム情報から生命システムへ」
2. 「多因子病のゲノム研究：現状と展望」
3. 「分子構造からセルラーメカニクスへ」
4. 「クロマチンのダイナミクス」
5. 「RNA プログラムと生命」
6. 「タンパク質の修飾と細胞内シグナル伝達」
7. 「複製装置の集合と維持」
8. 「細胞形態と運動の制御」
9. 「オルガネラの形成と形態制御」
10. 「多様なモデル生物を用いたポストゲノム時代の細胞生物学 小胞輸送の視点から」
11. 「小胞体ストレスとタンパク質の品質管理」
12. 「多彩なタンパク質分解マシナリー」
13. 「細胞周期の制御と癌化の接点」
14. 「プログラム細胞死の分子メカニズム」
15. 「形態形成におけるシグナル伝達」
16. 「幹細胞の多能性と可塑性」
17. 「免疫系における分子認識と制御」
18. 「老化の分子生物学：モデル生物からみる共通基盤」
19. 「高次脳機能発現の分子メカニズム」
20. 「バイオフィォーマティックス」
21. 「ナノバイオテクノロジー・分析から構築の科学へ」

ワークショップ（案）

1. 「ゲノム科学の新たな挑戦 ゲノム情報から生命の進化と多様性に挑む」
2. 「生命現象におけるエピジェネティクスの重要性」
3. 「マルチプロテインコンプレックスの新発現技術」
4. 「膜ナノマシンの作動機構と疾病」
5. 「DNA 損傷応答の多様性とダイナミズム」
6. 「細胞機能のキープレーヤー AAA+ タンパク質の世界」
7. 「蛋白質のフォールディング/プロセッシングによる細胞機能調節とその破綻」
8. 「タンパク質と脂質のオーケストレーションによる膜の形成」
9. 「UBL-UBA 蛋白質の細胞機能」
10. 「分裂装置の微小管ダイナミクス」
11. 「レドックスシグナリングと生命機能の制御」
12. 「細胞接着の分子機構」
13. 「肥満・糖尿病の発症機構」
14. 「細胞核機能と RNA ダイナミクス」
15. 「生物における時間機構研究の最前線」
16. 「免疫細胞の運命決定機構」

17. 「植物の発生における長距離シグナル オーキシンを中心に 」
18. 「システムバイオロジーによる動的な生命現象の解明」
19. 「機能性合成核酸」
20. 「生細胞イメージングによる高次生命機能の解析」

第 28 回日本分子生物学会年会 組織委員名簿

年会長		竹田 潔	九州大学生体防御医学研究所
佐方功幸	九州大学大学院理学研究院	竹中繁織	九州大学大学院工学研究院
		田中嘉孝	九州大学大学院薬学研究院
副年会長 / プログラム委員長		谷 時雄	熊本大学理学部
藤木幸夫	九州大学大学院理学研究院	谷村禎一	九州大学大学院理学研究院
		田村茂彦	九州大学大学院理学研究院
庶務幹事		續 輝久	九州大学大学院医学研究院
中條信成	九州大学大学院理学研究院	中尾光善	熊本大学発生病学研究センター
		中津可道	九州大学大学院医学研究院
プログラム委員		中別府雄作	九州大学生体防御医学研究所
石原 健	九州大学大学院理学研究院	中山建男	宮崎大学医学部
神田大輔	九州大学生体防御医学研究所	新川詔夫	長崎大学医学部
小林英紀	九州大学大学院医学研究院	仁川純一	九州工業大学情報工学部
釣本敏樹	九州大学大学院理学研究院	仁田坂英二	九州大学大学院理学研究院
中山敬一	九州大学生体防御医学研究所	二ノ宮裕三	九州大学大学院歯学研究院
服巻保幸	九州大学生体防御医学研究所	平田雅人	九州大学大学院歯学研究院
林 健志	九州大学生体防御医学研究所	藤原 学	九州大学大学院理学研究院
三原勝芳	九州大学大学院医学研究院	射場 厚	九州大学大学院理学研究院
吉村昭彦	九州大学生体防御医学研究所	牟田達史	九州大学大学院医学研究院
		向井常博	佐賀大学医学部
組織委員		森 正敬	熊本大学大学院医学薬学研究部
石野良純	九州大学大学院農学研究院	山本健二	九州大学大学院歯学研究院
岡 敏彦	九州大学大学院医学研究院	山村研一	熊本大学発生病学研究センター
岡本正宏	九州大学大学院農学研究院	山田 源	熊本大学動物資源研究・支援センター
奥本寛治	九州大学大学院理学研究院	和田守正	九州大学大学院医学研究院
小椋 光	熊本大学発生病学研究センター		
片峰 茂	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	特別委員	
片山 勉	九州大学大学院薬学研究院	磯野克己	(独)製品評価技術基盤機構
康 東天	九州大学大学院医学研究院		
木下俊則	九州大学大学院理学研究院		
楠見健介	九州大学大学院理学研究院		
久原 哲	九州大学大学院農学研究院		
河野公俊	産業医科大学医学部		
古賀誠人	九州大学大学院理学研究院		
児島将康	久留米大学分子生命科学研究所		
佐々木顕	九州大学大学院理学研究院		
佐谷秀行	熊本大学大学院医学薬学研究部		
皿井明倫	九州工業大学情報工学部		
白畑實隆	九州大学大学院農学研究院		
住本英樹	九州大学生体防御医学研究所		
田賀哲也	熊本大学発生病学研究センター		
高橋考太	久留米大学分子生命科学研究所		

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 研究助成・選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
（賞推薦の場合はコピー計7部をご提出下さい。）
- 3) 申込受付確認のための返信封筒または葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

4月に役員が替わりますが、3月末日までは下記に提出して下さい。4月以降の送り先については学会事務局（TEL 03-5805-1901，E-mail：bunshi@medissue.co.jp）にお問合せ下さい。

賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長 岡田清孝
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科植物学
Fax：(075)753-4257

研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長 辻本賀英
〒565-0871 吹田市山田丘2-2 大阪大学大学院医学系研究科B8 遺伝子学
Fax：(06)6879-3369

3. 提出期限

財団等の締切の1ヵ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

研究助成一覧

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
第36回三菱財団自然科学研究助成	(財)三菱財団 ☎(03)3214-5754 〒100-0005 千代田区丸の内2-5-2	総額3億円, 40件程度	2005年 2月4日	1件当り2,000万円 まで	自然科学の基礎となる独創的、かつ先駆的研究とともに、国際的發展に先導的役割を担う萌芽ともなる研究(原則として個人研究)。
新化学発展協会 2005年度研究奨励金	(社)新化学発展協会 ☎(03)5297-8820 〒101-0041 千代田区神田須田町1-12	8課題, 各課題1件	2005年 1月31日	1件 100万円	新化学の發展に資する若手研究者(39歳以下)の研究に対して、研究奨励金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財団 2005年度研究援助	(財)山田科学振興財団 ☎(06)6758-3745 〒544-8666 大阪市生野区巽西1-8-1	10件程度 (2件)	2004年 3月31日	1件当たり100~ 500万円, 総額4,000万円	自然科学の基礎的研究に対しての研究費援助。 [推薦書は山田財団HP よりダウンロード www.yamadazaidan.jp]
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎(03)3263-1722 〒102-8471 千代田区一番町6 日本学術振興会内	1件 (1件)	2005年* 5月20日	賞状, 賞牌, 1,000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ、世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者。
第23回研究助成 第22回国内および 海外留学補助金 第22回持田記念学 術賞	(財)持田記念医学薬学振興財 団 ☎(03)3358-7211 〒160-8515 新宿区四谷1-7	総額 4,500万円 総額 1,000万円 2件以内 (1件)	2005年 6月30日 2005年 6月30日 2005年 7月31日	1件 100万円 1件 50万円 1件 300万円	生命科学・薬物科学・情報科学と医療応用の研究の分野における研究で、顕著な功績があり、かつ新進気鋭の研究者。
平成17年度 日産科学賞	(財)日産科学振興財団 ☎(03)3543-5597 〒104-0061 中央区銀座6-16-9	1件 (1件)	2005年* 8月31日	賞状, メダル, 500万円	自然科学分野で、学術文化の向上・發展に大きな貢献をした新進気鋭の研究者。
笹川科学研究助成	(財)日本科学協会 ☎(03)6229-5365 〒107-0052 港区赤坂1-2-2 日本財団ビル	約410件	募集期間 2005年* 9月1日 、 10月15日	1件当り100万円ま で	人文科学, 社会科学および自然科学(医学を除く)、または境界領域の研究計画に関するもの。 4月1日現在, 35歳以下の若手研究者へ助成。
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 ☎(03)3985-3500 〒171-0033 豊島区高田3-26-3	2件以内 (1件)	2005年* 9月10日	金牌 2,000万円	生命科学の栄養学, 薬学, 基礎および臨床医学, 社会医学で顕著な業績を挙げ、引き続き活躍中の研究者。
井 上 学 術 賞	(財)井上科学振興財団 ☎(03)3477-2738 〒150-0036 渋谷区南平台町15-15-601	5件以内 (1件)	2005年* 9月20日	1件賞状, メダル, 200万円	自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を挙げた者(ただし締切日現在満50歳未満)。
木原記念財団学術 賞	(財)木原記念横浜生命科学振 興財団 ☎(045)825-3487 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町 641-12	1件 (1件)	2005年* 9月30日	賞状, 記念牌, 200万円	最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で、原則として締切日現在50歳以下の者。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 ☎(047)350-6103 〒279-8555 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後 (2件)	2005年* 10月8日	1件につき 賞状,金メダル, 500万円	学術上の業績顕著な者, 学術上重要な発見をした 者,重要な発明により効 果が大きい者,技術上の 重要問題を解決し貢献が 大きい者。 基礎的な研究に従事し, 今後の研究の成果が科学 技術の進歩・発展に貢献 するところが大きいと考 えられる,独創的,萌芽 的な研究を活発に行っ ている若手研究者。
東レ科学技術研究 助成		総額 1億3,000万 円 10件程度 (2件)	2005年* 10月8日	特に定めず最大 3,000万円程度 まで	
第37回科学振興賞	(財)内藤記念科学振興財団 ☎(03)3813-3005 〒113-0033 文京区本郷3-42-6 NKDビル8階	1件 (1件)	2005年* 10月1日	金メダル, 500万円	人類の健康の増進に寄与 し得る自然科学の基礎的 研究,自然科学の進歩発 展に顕著な功績を挙げた 研究者。 同上のテーマに取り組み, 国際的に高い評価を 得ている外国の研究者を 招へいする受入れ責任者 に贈呈。
第37回海外学者招 へい助成金		前後期各総 額500万円 (1件)	2005年* 6月2日 10月1日	1件 20~60万円 まで(エリアによる)	
ブレインサイエ ンス財団研究助成		8~10件 (1件)	2005年* 11月25日	1件 100万円	ブレインサイエンス研究 分野(脳神経に関する自 然科学的研究をすべて含 む研究領域)において独 創的で国際的評価に値す る研究者。なるべく若い 者,単独または共同研究 も可。
塚原仲晃記念賞	(財)ブレインサイエンス振興 財団 ☎(03)3273-2565 〒104-0028 中央区八重洲2-6-20	1件 (1件)		1件 100万円	ブレインサイエンスの研 究の促進を図るため,国 際学会,シンポジウム等 への参加,あるいは研究 者の派遣を助成。
海外派遣研究助成		若干件 (1件)	2006年* 1月14日	1件 30万円まで	同分野において独創的 テーマに意欲的に取り組 んでいる外国人研究者の 招聘を助成。
海外研究者招聘助 成		若干件 (1件)		1件 30万円まで	
研究助成	(財)長瀬科学技術振興財団 ☎(06)6535-2117 〒550-8668 大阪市西区新町1-1-17	10数件	2005年* 11月30日	1件 250万円以内	生化学および有機化学等 の分野において研究活動 を行う研究者または研究 機関。
2006年度研究集会 助成	(財)ノバルティス科学振興財 団 ☎(03)5464-1460 〒106-8618 港区西麻布4-16-13 西麻布28森ビル10F	約10件 (1件)	2006年* 1月31日	1件 50万円	わが国で開催される生 物・生命科学およびそれ に関連する化学の領域に おける研究集会に対し, 運営経費の一部を助成す る。研究集会はかなりの 数の国外からの参加者を 含む国際性豊かな集会で なければならない。ただ し,参加者が1,000名を 越すような大規模な研究 集会および2国間の研究 集会は原則として助成対 象としない。

()内は,応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合,本学会の推進枠を示しています。
*は,本年度の案内を受取っておらず,昨年の締切日を参考に示してあります。

ロレアル アーツ アンド サイエンス ファンデーション

「ロレアル 色の科学と芸術賞」公募

色をテーマにして、科学と芸術の新鮮でオリジナルな出会いを実現している具体的な仕事に対する賞です。単体の一論文や一作品、ないしは、ひとつの同じ問題設定やプロジェクトに属する連作や一連の論文群を対象としています。また、ひとつの作品や論文をメインにして、ほかのものを関連リフェランスとして添付することも可能です。

金賞 (1 人賞金 30,000 ユーロ (おおよそ 400 万円))

銀賞 (1 人賞金 20,000 ユーロ (おおよそ 270 万円))

銅賞 (1 人賞金 10,000 ユーロ (おおよそ 130 万円))

応募受付期間：2005 年 3 月 31 日 (木) まで

応募資格：科学または芸術の領域の仕事をしている人。年齢・国籍は問いません。(英文での応募となります。)

問 合 せ：ロレアル アーツ アンド サイエンス ファンデーション

東京都渋谷区代々木 2-22-5-701 tel : 03-5308-2662 e-mail : lasf@gol.com

ホームページ (英語) : <http://www.art-and-science.com/>

各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

特定領域研究「水と生体分子が織り成す生命現象の化学」

第2回公開ワークショップ

参加費：無料

日時：3月17日(木)9時30分 18時5分
3月18日(金)9時30分 18時10分

場所：コクヨホール 東京都港区港南 1-8-35
TEL：03(3450)3712

懇親会：3月17日(木)18時30分より

会場：コクヨホール内

参加費：ホームページ参照

申込方法：懇親会参加希望者は3月3日までに氏名、フリガナ、所属、勤務先住所、電話番号、メールアドレスを明記の上、sympo@gagliano.phys.s.u-tokyo.ac.jp までお申し込みください。

連絡先：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東大・理・物理・桑島邦博

TEL：03-5841-4128 FAX：03-5841-4512

URL：<http://gagliano.phys.s.u-tokyo.ac.jp:8000/tokutei/>

プログラム：

March 17 (Thu.)

09:30 Opening Remark

Session 1:Protein Dynamics & Function

09:40 Janos K. Lanyi (Univ. of California)

10:30 Hideki Kandori (Nagoya Inst. of Tech.)

11:10 Masayoshi Nakasako (Keio Univ.)

13:30-15:30 Poster Session

Session 2:Protein Folding

15:45 Franz X. Schmid (Univ. of Bayreuth)

16:35 Yuko Okamoto (Inst. for Molecular Sci.)

17:15 Ronald M. Levy (Rutgers Univ.)

18:30 Social Meeting

March 18 (Fri.)

Session 3:Water & Biomolecular Structure

09:30 Kenichi Yoshikawa (Kyoto Univ.)

10:10 Masahide Terazima (Kyoto Univ.)

10:50 R. J. Dwayne Miller (Univ. of Toronto)

13:30-15:30 Poster Session

(Session 3 continued)

15:40 Benoit Roux (Cornell Univ.)

Session 4:Protein Amyloidogenesis

16:30 Hironobu Naiki (Fukui Univ.)

17:10 Christopher M. Dobson (Cambridge Univ.)

18:00 Closing Remark

シンポジウム「科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える」

共催（予定）：応用物理学会・化学工学会・情報処理学会・大気環境学会・電気学会・
電子情報通信学会・土木学会・日本化学会・日本機械学会・日本技術士会・
日本建築学会・日本原子力学会・日本農芸化学会・日本薬学会・日本分子生物学会

講演（予定）：日本学術会議 学術と社会常置委員会

日 時：平成 17 年 3 月 28 日（月）13：00 16：50

会 場：神奈川大学横浜キャンパス（日本化学会第 85 春季年会会場）

科学者・技術者コミュニティである学協会は、人類の安全・健康、福祉の増進や環境保全のために重要な役割を果たすことが期待され、「行動規範」「科学者・技術者倫理」の確立が社会から受容される必要条件になっている。加えて、近年は大学の法人化と大学発ベンチャー等に係る知的財産権の問題などもクローズアップされ、先般、日本学術会議では科学におけるミスコンダクトについて対外報告を発表するなど、科学者・技術者コミュニティの社会に対する責任が重大な問題になってきている。

本シンポジウムでは、科学者・技術者の倫理憲章や行動規範等を策定している学協会の、この問題に対する取組みの現状を話題提供していただき、科学者・技術者の倫理と社会に対する責任について考えてみたい。

プログラム

開会挨拶（13：00 13：10）

（日本化学会平成 16 年度会長）御園生 誠 氏

基調講演（13：10 13：50）

『歴史的にみた科学者・技術者の倫理』（仮題）

（恵泉女子学園大人文）古谷 圭一 氏

話題提供（13：50 15：30） 講演時間 1 件 25 分

（日本機械学会技術倫理委員会委員長）斎藤 忍 氏

（土木学会教育企画人材育成委員会委員長）池田 駿介 氏

（情報処理学会より講演予定）

（日本化学会倫理規定策定 WG 委員）井上 祥平 氏

総合討論（15：45 16：45）

閉会挨拶（16：45 16：50）

（日本化学会倫理規定策定 WG 委員）富永 健 氏

参加費：無料。資料代 500 円（予価）

申込方法：氏名、所属・役職、連絡先（〒、住所、電話番号、FAX 番号、e-mail）を明記し、e-mail で下記あてお申し込みください。申込者には参加証を送付します。

申込先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 （社）日本化学会企画部 太田（電話：東京（03）3292-6163、FAX：東京（03）3292-6318、e-mail：oota@chemistry.or.jp）

The First International Conference of the Metabolomics Society

日 時：平成 17 年 6 月 20 日（月） 23 日（木）
会 場：慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス
山形県鶴岡市馬場町 14-1（最寄の空港；庄内空港）
TEL：0235-29-0800（代）

主催（国際）：International Metabolomics Society

主催（国内）：慶應義塾大学先端生命科学研究所
Human Metabolome Technologies, Inc

講演者（予定）：Rima Kaddurah, Bruce Kristal, George Harrigan, Oliver Flehn, Jan van der Greef,
Royston Goodacre, Jeremy Nicholson, Masaru Tomita, Brenda Weis, Marta Cascante,
Robert Hall, Douglas Kell, Pedro Mendes, Chris Newgard, Bernhard Palsson,
Lloyd Sumner, Richard Beger, Paul Lee, Wayne Matson, Tomoyoshi Soga,
Steve Watkins, Haihong Zhou, John Ryals
他、日本の科学者数名

U R L：www.metabolomicssociety.org/japan2005

参加申込：上記 URL にて参加・宿泊の受付を 1 月 20 日より受付中。

アブストラクト受付：上記 URL にて受付中。4 月 1 日締切。

〔Metabolomics 2005 Secretariat〕

（株）ジェイコム 内 TEL：03-3546-1156 FAX：03-3546-1165

E-mail：metabolomics@jtbc.com.co.jp

第 32 回生体分子科学討論会

共 催：日本分子生物学会他

日 時：平成 17 年 6 月 24 日（金） 25 日（土）

場 所：神戸大学 六甲ホール

発表申込締切：平成 17 年 4 月 25 日（月）

予稿原稿締切：平成 17 年 5 月 23 日（月）

討論主題：生体分子の構造および相互作用・認識・調節・反応・情報伝達・電子伝達

発表形式：口頭発表

参加登録予約申込締切：平成 17 年 6 月 6 日（月）

参加登録費（要旨集代を含む）：一般 4,000 円（当日 5,000 円） 学生 2,500 円（当日 4,000 円）

懇親会費：一般 6,000 円（当日 7,000 円） 学生 4,000 円（当日 5,000 円）

発表申込・参加申込方法：メールにて（詳細については下記ホームページを参照）

問合先・申込先：〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学分子フォトサイエンス研究センター 水谷泰久

電子メール：biomol32@kobe-u.ac.jp

U R L：http://www.kobe-u.ac.jp/biomol32/

分子生物学会・男女共同参画 WG より

新着情報のお知らせ

HP に新しい記事を載せています

- ・大河内 真氏（理研）、篠原美紀氏（大阪大・タンパク研）、本橋令子氏（静岡大・農）のエッセイ（2003 年度年会シンポジウムの報告）
- ・赤林英夫（慶應大・経済）、木村洋子（都臨床研）両氏による「学協会アンケートからわかる分子生物学会会員の实態」＜会員の实態がリアルにわかるアンケート報告です。＞

日本分子生物学会 会報
年 3 回刊行

第 80 号 (2005 年 2 月)

発 行 : 日本分子生物学会 庶務幹事

製 作 : 日本分子生物学会 事務局